

モモ「あかつき」のジョイントV字トレリス樹形における 成木期以降の側枝管理を検討しました

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—モモ—作型・栽培型

2 担当者名

高橋堯之、志村浩雄

3 要旨

モモのジョイントV字トレリス樹形について、成木期以降の側枝管理の改善を目的として、側枝本数を制限し、水平方向に展開する新たな側枝管理を検討した。処理後1年目には収量が減少したが、2年目には回復し、果実品質には差が見られなかった。

(1) 慣行の側枝管理は、約50cm間隔で側枝を配置している（樹間1.5mでは両側で6～8本）が、側枝下部の結果枝の日当たりが不足し衰弱が見られた。

(2) 新たな側枝管理は、従来の側枝本数を約半数に間引き（樹間1.5mでは両側で3～4本程度）、残された側枝から中・長果枝を発生させて水平方向に展開した（図1）。

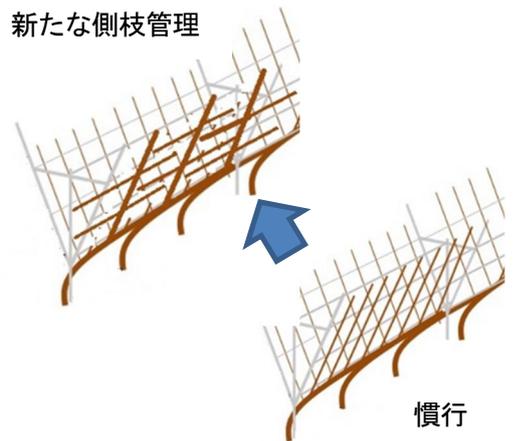
(3) 新たな側枝管理における処理後1年目の収量は、慣行と比較して2割程度減少したが（データ省略）、2年目には概ね同等となり、果実品質にも差は見られなかった（表1）。

表1 側枝管理の違いと収量及び果実品質

処 理	収量 (kg)	果重 (g)	地色 指数	硬度 (kg)	糖度 (° Brix)
新たな側枝管理	71.0	297	5.6	2.1	12.8
慣 行	76.6	296	5.5	2.1	12.7
分散分析	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

注) 樹間は両処理ともに1.5m。n. s. は有意差無しを示す。

新たな側枝管理



慣行

図1 ジョイントV字樹形の改良

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 スマート農業プロセスイノベーション推進事業〔農林水産分野の先端技術展開事業 (JPJ009997)〕

本研究は、農林水産省 (令和3年度～令和4年度)・福島国際研究教育機構(F-REI) (令和5年度～令和6年度)の農林水産分野の先端技術展開事業のうち、「社会実装促進業務委託事業 (農業分野)」 (JPFR23060110、JPFR 24060110)により実施した。

5 主な参考文献・資料 なし